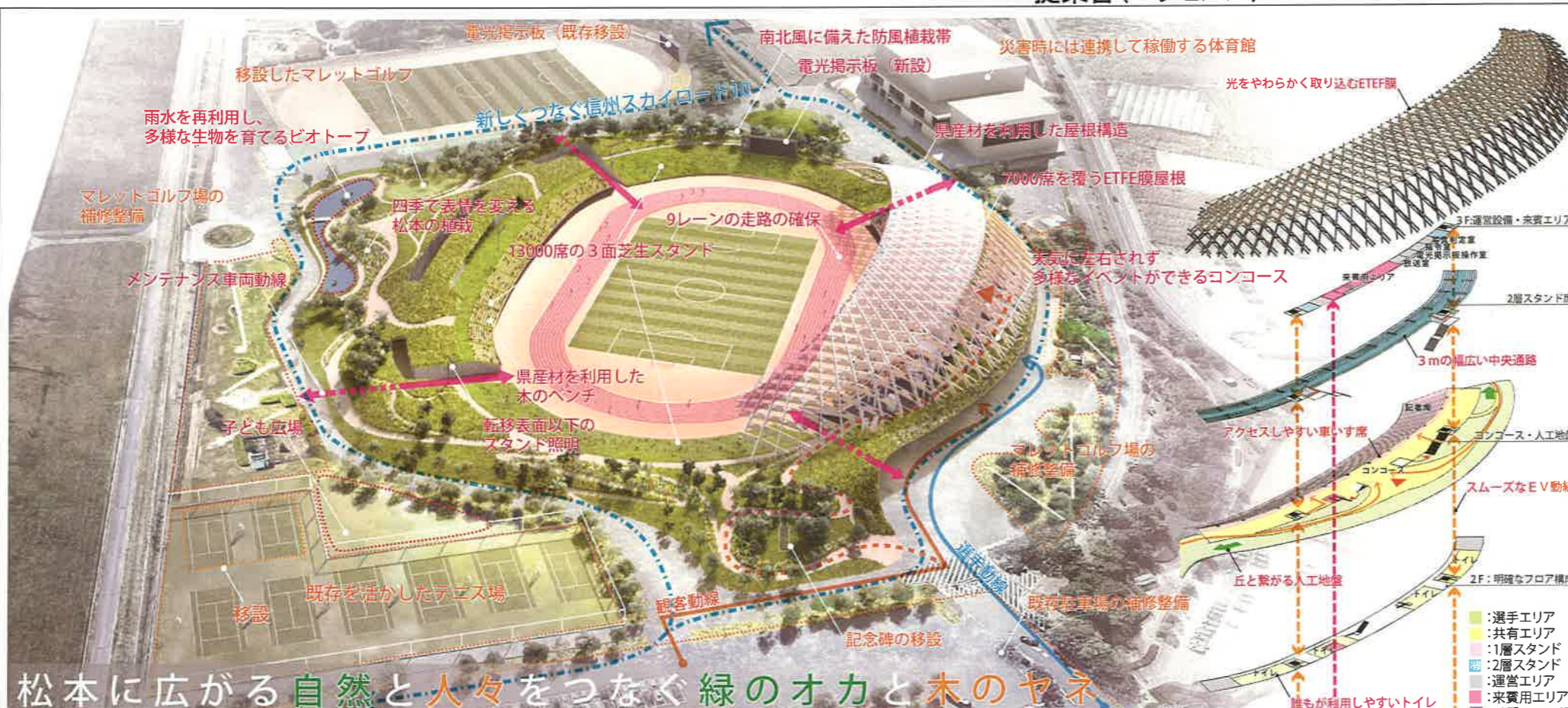


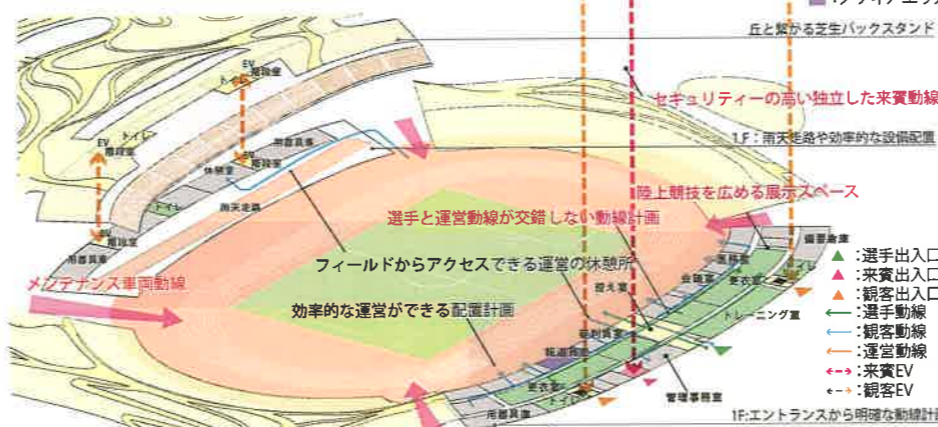
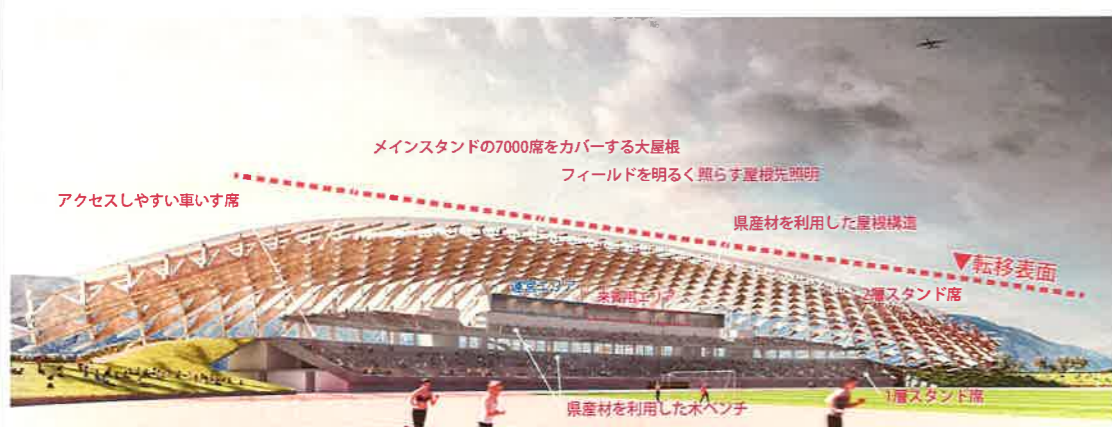
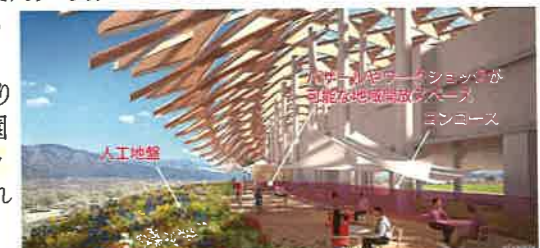
提案書(エッセンス)



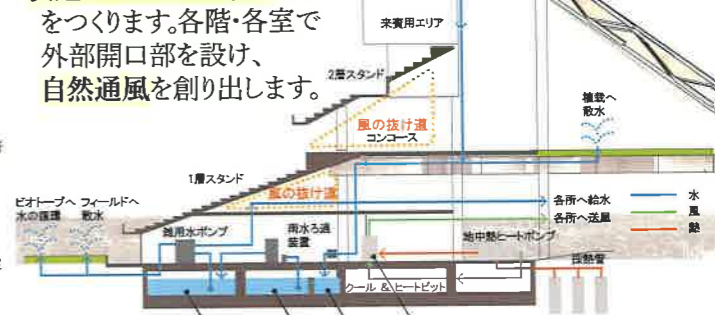
③県民に未永く利用されるための施設整備
■ 一般利用しやすい市民開放エリア
 市民開放エリアに面して信州スカイロード10を並走させることで、競技場を使用していない場合でもトレーニング室・ウォームアップ室・雨天走路などを一般開放しやすい位置に配置し、1年を通して市民に親しまれる計画とします。また、災害時はどの方向からもフィールドの一時避難スペースへアクセスでき、緑の丘は緊急車両が通れる道幅を確保し、安心で安全な競技場とします。



■ 多様な市民イベントに使用可能なコンコース
 コンコースの「軒下空間」では競技場の開催に伴った物販スペースやイベントブースが催され賑わいのある空間となります。競技場利用の無い際も、他の公園施設と連動したバザールやワークショップを開催し、スポーツ利用者以外も訪れるきっかけをつくる空間を作ります。



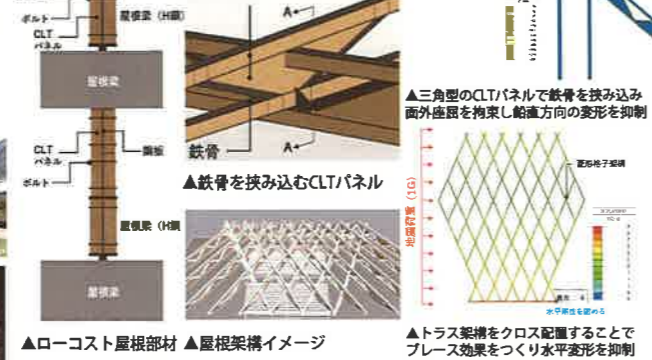
④環境や防災に配慮した長く使い続けられる施設整備
■ 土地の風を生かした換気計画
 南北軸に吹く卓越風を利用し、コンコースに「風の抜け道」を設け、効率的な換気を行い、イニシャルコストを抑えた快適なスタジアム環境をつくり出します。各階・各室で外部開口部を設け、自然通風を創り出します。



①美しく機能的であり、親しみのある施設整備
■ 地域をつなぐ丘陵スタンド
 周囲の緑化エリアと一体感のあるスタンドとするため、松本平を囲む豊かな自然を活かしたおらかな丘陵型のスタンドとします。スタンドの座席には県産材を利用した木製ベンチを配し、ぬくみのある優しい計画とします。地域に点在する古墳や洞窟といった遺構や自然の力強さを取り込み、地域の固有性を発揮した施設とします。



■ 県産材を利用したハイブリッド屋根
 大きな屋根架構を支える部材の一部に県産材を積極的に採用し、CLT木パネルのハイブリッドトラス構造とすることで、しなやかな屋根とします。一般流通断面の鉄骨で構成された格子型フレームや、ETEF膜による屋根材で、ローコスト化・短工期化・軽量化を図り、木に包まれた明るいスタンドとします。



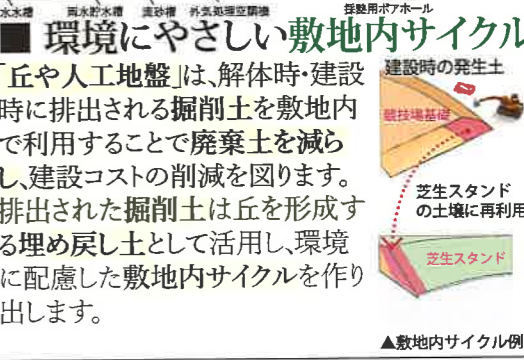
②既存施設とのつながりに配慮した施設整備
■ 既存施設への影響を抑えた公園整備
 競技場を包む「丘」は周辺環境との一体的なランドスケープを創り出します。現在の駐車場・マレットゴルフコース等を避けた配置計画を行い、影響を最小限に抑えた既存設備の移設を目指します。



■ BEMSを利用したLCC低減
 BEMS装置を導入し、エネルギーの可視化。施設の運用実態を詳細にし、さらなる省エネ展開を実施し、LCC低減を図ります。



■ 地域とつながる「丘」の植栽計画
 適切な移植の計画し、親しみのある在来の樹木を混樹します。無理のない既存樹の移植計画や、人工地盤・丘・広場の各所に適した植栽計画を行い、緑豊かな「丘」をつくり周辺施設や山並みの美しさと繋げます。



■ 環境にやさしい敷地内サイクル
 「丘や人工地盤」は、解体時・建設時に排出される掘削土を敷地内で利用することで廃棄土を減らし、建設コストの削減を図ります。排出された掘削土は丘を形成する埋戻し土として活用し、環境に配慮した敷地内サイクルを作り出します。

